営農技術情報(第5号)

令 和 6 年 7 月 なのはな農業協同組合 富山農林振興センター

気象変動に負けないコシヒカリを作ろう!! ~「R6 JAなのはな米品質向上運動」実施中~

- ○コシヒカリの生育は、草丈・葉色は平年並み、茎数は平年並みからやや少なめとなっていますが、 ほ場による生育差が大きくなっています。今後も気温が高くなると予想されるため、幼穂形成期(幼 穂長2mm)は7月12日頃と見込まれます。
- ○今後も生育状況を的確に把握し、適切な穂肥施用で過剰着粒を防ぐとともに、水管理や基本防除を 徹底し、気象変動に負けない良質米の生産につなげましょう。

1. コシヒカリの穂肥

(1)肥効調節型基肥栽培の場合

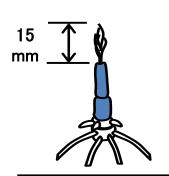
原則追肥は不要です。ただし、出穂の7~10日前 (7/23~26頃) に葉色を確認し、葉色が4.0 (砂壌土は4.2)以下の場合は、登熟期間中の稲体の活力維持のため、出穂の3~7日前までに追肥3号を5~7kg/10a 施用しましょう。

(2)分施栽培の場合

生育状況を確認し、生育に応じた穂肥を施用しましょう。

「・1回目穂肥:倒伏や過剰着粒を防ぐため、**生育量に応じて慎重に施用**

・2回目穂肥:登熟期の稲体活力維持のため、**確実に施用**



1回目穂肥施用時の 幼穂(長さ:15 mm)

【分施栽培の穂肥の目安:5/12 田植、追肥3号を使用する場合】

	1回目 幼穂長15㎜	2回目穂肥							
生育量	草丈	葉色	施用時期	10 a 当り 施用量	施用時期	10a 当り 施用量			
適正	8 2 ㎝未満	3.6程度	7月20日頃 幼穂長15mm	1 Okg	1回目穂肥の	10 10			
やや過剰	82~87cm	3.8程度	7月22日頃 幼穂長20mm	7 kg 程度	7日後	10~13kg			
過剰	8 7 ㎝以上	4.0以上	施用しない		7月26日頃 幼穂長10cm	10kg 程度			

2. 水管理

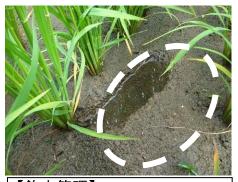
(1) 幼穂形成期~出穂期は飽水管理 ~飽水管理で根の活力を維持!~ 足跡に水が残る程度になったら入水し、常に土が潤った状態を保ちましょう。

(2) 出穂後20日間は湛水管理 ~ 湛水管理で登熟を向上!~

出穂期から20日間は湛水状態(田面が出ない程度)を保ち、稲体の活力を維持しましょう。(高温時は、こまめな水の入れ替えを!)

飽水管理:自然減水により、足跡に「水がなくなる前」に入水する。

湛水管理:田面が出ない程度(3cm程度)に水をためる。

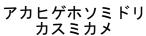


【飽水管理】 足跡に水が残っている状態

○天気予報と体調をチェックし、日中の気温の高い時間帯を外して農作業を行いましょう。 ○こまめな水分・塩分補給や適切な休憩など、熱中症対策を徹底しましょう!

今年も例年以上に、カメムシ類が多発しています!! ~畦畔等の草刈り及び防除を確実に行いましょう~







アカスジカスミカメ



トゲシラホシ カメムシ



クモヘリ カメムシ

雑草地におけるカメムシ生息 密度調査結果(6/26調査)

確認地点率:100%

平均頭数:14.4頭/地点

調査地点数:19地点

1 草刈りの徹底

6月26日に農協管内の雑草地でカメムシ類を調査したところ、上記のような**斑点米カメムシ類が平年より多く** 確認されました。**斑点米カメムシ類は、畦畔などの出穂中のイネ科雑草を好みます**(写真)。

雑草の穂が出ないように、畦畔や農道の草刈りを行いましょう。やむをえず、**穂が出ている雑草を刈る場合は、**本田薬剤防除の直前に行いましょう。







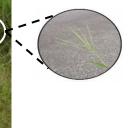


写真 出穂中のイネ科雑草

2 適期の病害虫防除 ~出穂状況を確認し、遅れずに防除しましょう!~

穂揃期(出穂3~5日後頃)と傾穂期の2回防除を徹底し、散布間隔は7日を目安(10日以上あけない)としましょう。また防除の際は、畦畔にも薬剤がかかるようにしましょう。

【防除時期の日安】 ※田植時期は、てんたかく:5/3頃、コシヒカリ:5/12頃で推定

<u> </u>			<u> </u>		
体系	防除時期	てんたかく (7/17 出穂)	コシヒカリ (8/2 出穂)	薬剤名	10a当り散布量
粉剤 -	穂 揃 期 (穂が9割程度出ていたら)	7/20頃	8/7頃	ラブサイドキラップ粉剤 DL	3~4kg (収穫 14 日前まで)
	傾 穂 期 (穂揃期の7日後)	7/27頃	8/14頃	トレボンスター粉剤 DL	3~4kg (収穫7日前まで)
粒剤	出穂10日前頃	7/7頃	7/25頃	フジワンラップ粒剤	4kg (収穫 30 日前まで)

- ・田植日や生育等により出穂期が異なるため、防除前には必ず出穂状況を確認しましょう
- ・全品種 2 回の基本防除を徹底し、斑点米の発生を防ぎましょう
- ・防除の際は農薬の使用基準を正しく守るとともに、農薬飛散防止のため、風のない時に散布しましょう